

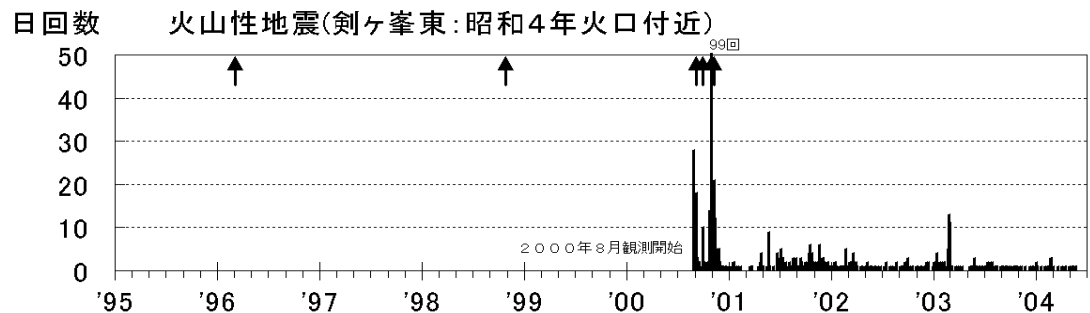
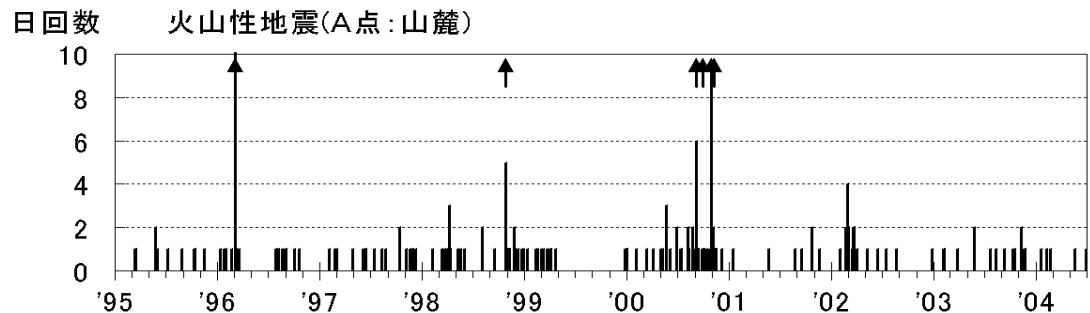
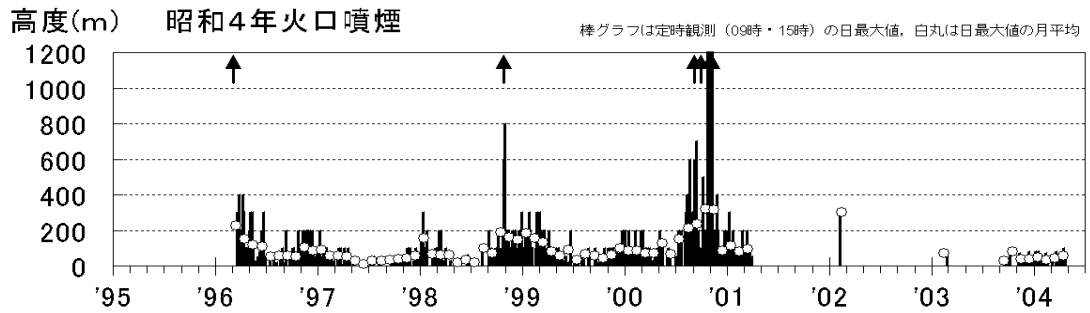
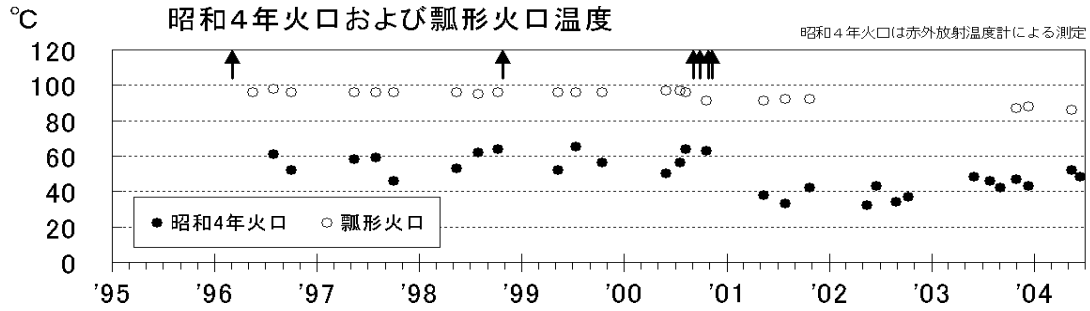
北海道駒ヶ岳

1 概況

火山活動に特別な変化はなく、静穏な状態が続いています。

地殻変動はわずかながら山体膨張の傾向が続いています。昭和4年火口ではこれまで同様弱い噴気が見られています。火山性地震は少ない状態が続いています。

北海道駒ヶ岳では1996年から2000年までの間に6回の小噴火が発生しており、噴火発生の数年前に小噴火を繰り返した1929年大噴火や1942年中噴火の前の状況と類似しています。



最近の火山活動経過図(1995年1月1日~2004年6月30日) 印は噴火

2 噴煙の状況

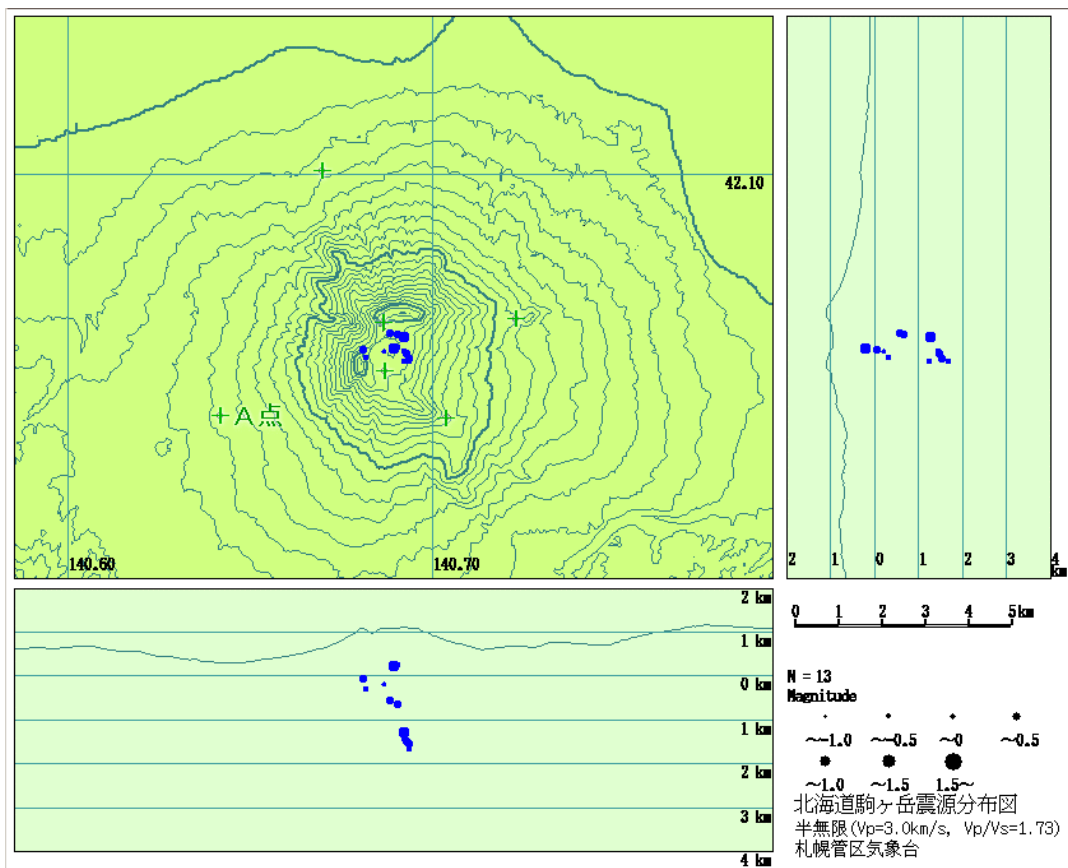
2003年9月以降,昭和4年火口および96年南火口列からの弱い噴気がしばしば観測されていますが、今期間は2日と27日に弱い噴気が一時的に観測されました。

3 地震の発生状況

今期間、A点で観測された火山性地震は1回で、山頂臨時点で観測されるごく微小な地震を含め、少ない状態で推移しました。火山性微動は2001年1月以降観測されていません。

地震・微動の月回数(A点)

2003~2004年	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
地震回数	1	1	1	2	4	0	1	2	0	0	1	1
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

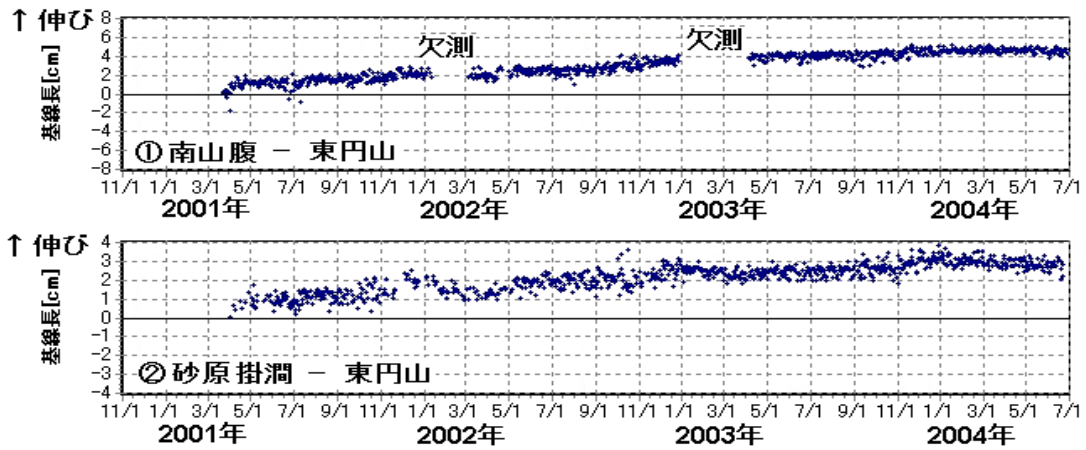


北海道駒ヶ岳の震源分布図(丸印:震源 +印:地震観測点)

今期間(2004年6月1日~6月30日)に求まった震源はありませんでした。
 青丸は前期間までの1年間(2003年6月1日~2004年5月31日)に求まった震源を示しています。
 過去の震源分布は大きく分けて山頂火口原直下の海拔付近と海拔下1~2kmに集中しています。このほか、山麓のやや深いところ(5~10km)を震源とする地震も時折発生していますが、十分な精度が得られないためこの図には表示していません。

4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、引き続きわずかな山体膨張を示す基線長の伸びが認められていますが、一部の基線長では鈍化しているような傾向も見られます。季節変動の影響も考慮しながら、引き続き観測をしていく必要があります。



基線長変化(2001年3月23日~2004年6月30日)

